

令和3年6月 青葉区議員団会議 会議録	
開催日時	令和3年6月11日（金） 午後2時～午後3時
場 所	W e b 会議
出席者	【議 長】 内田みほこ議員 【議員：9名】 赤野たかし議員、大貫憲夫議員、行田朝仁議員、小島健一議員、田中ゆき議員、平田いくよ議員、藤崎浩太郎議員、山下正人議員、横山正人議員 【説明局員：24名】 小澤区長、馬淵副区長、青木福祉保健センター長、吉田福祉保健センター担当部長、鈴木青葉土木事務所長、黒岩消防署長 ほか関係職員
次 第	報告事項 新型コロナウイルス感染症に係る青葉区の状況について （総務課 資料1）
報告事項1 新型コロナウイルス感染症に係る青葉区の状況について	
発 言 の 要 旨	山下議員 今、区民の一番の関心事はワクチン接種だと思うが、青葉区医師会は接種に非常に協力的だと聞いている。 一方で病院によって希望者への対応方法が随分違っていて、例えば、接種対象を診察券をお持ちの方や定期的に通院していただける方に限ったり、あるいは特にそうした制限はなかったりと色々と分かれているようだが、状況を教えていただきたい。 青木福祉保健センター長 区内の医師会加盟の医療機関がおおよそ220か所あり、その中の87か所からは、かかりつけでなくても接種できるとご回答をいただいている。 それ以外に例えば透析専門の医療機関で限られた患者さんをきちんとお守りしながら接種したいというところや、老人保健施設等の診療所で入所者にしっかり対応したいといった理由から、どなたでも受け付けるということは難しいが、接種には協力して地域医療を守りたいと言っているところが大体50から60か所ぐらいある。 医師の数は限られているので受入れには当然限界もあると思うが、基本的にどなたでも接種しますという医療機関については、市のホームページへの掲載に加えて、今後広報よこはまでも周知する予定である。 山下議員 ハンマーヘッドや東京の大規模接種会場の予約枠が空いているという報道がされているが、やはり自宅から歩いていける近所のかかりつけ医やクリニックで接種を受けたいという希望の声を多く聞く。 どなたの予約でも受け付けるという医療機関が区内に87か所あると

	のことだが、それらの医療機関から求められたワクチンがきちんと届く体制はできているのか。
青木福祉保健 センター長	ワクチンについては国において確実に確保していると聞いており、国からの配付後、市の配送センターで配分するために1～2週間のタイムラグは出るが、必要な場所に確実に供給されると医師会の先生方にもご説明している。
大貫議員	広報よこはままで区民、市民の方にお知らせするということだが、それだけでは足りないと思う。広報紙に加えて例えば地区センター等でもご案内したり、どなたでも予約できる87の医療機関をよく目に届くところに表示する必要があると思うが、どうか。
青木福祉保健 センター長	広報手段が多くあることが大事だと考えており、例えば市営バスの車内での広報を始め、市役所の部局を横断して広報に努めている。 区としては、民生委員、保健活動推進員、ヘルスメイト、食生活等改善推進員といった地域に根差している方々のお力もお借りして、例えば民生委員は単身の高齢者の方をかなり把握していただいているので、そうした方にきちんとつながるように広報していきたいと考えている。
大貫議員	誰一人として取り残されることがないように、協力し合って進めていただきたい。 広報に関して、どなたの予約でも受け付けるという87か所の医療機関に「ここは接種会場ですよ」とか「ここはどなたでも対応していますよ」といった表示をすることも必要と思うが、どうか。
青木福祉保健 センター長	どなたでも予約ができる87か所の医療機関の一覧を見たが、受付方法を見るとインターネットやLINEに限定したり、あるいは窓口受付のみとしたりと、これまでお問合せ対応にご苦労された様子が窺える。 そこをなるべくスムーズに対応するためにベテランの先生から若手の先生までがそれぞれのご事情に応じてオーダーメイドで工夫されていると考えられ、一律に表示をお願いすることは難しいと考えている。
大貫議員	一律にこうしてくださいとお願いすることは難しいことは理解した。 87か所もの医療機関の方々に手を挙げてもらったのは非常に大切だと思っているしこれまでの努力もあると思う。接種を受けられる場所をさらに増やすような努力も引き続きお願いしたい。

行田議員	資料の2ページに10万人当たりの患者確認数推移とあるが、全国の10万人当たりの直近の数字と東京都の数字があつたらぜひ教えていただきたい。
青木福祉保健センター長	インターネットで検索した情報になってしまうが、10万人あたりの患者確認数は東京都で23人、横浜市で15～16人となっている。全国についてはもう少し低いはずである。
行田議員	青葉区に隣接する東京都町田市を始め、周辺の自治体のほうが多く接種しているのではないかという声を聞く。それに対して、人口比では東京都は神奈川県と横浜市の1.3倍だが、累計の感染者は2.5倍に上る。さらにオリンピック・パラリンピックがあることも含めると、東京のほうにワクチンがあるのは当たり前とも言える。そういうことを前提として考えないと、区民にも不満や不安が出てくる。 地元の皆さんが頑張ってくださっているおかげで区内や市内の感染拡大が東京に比べて抑えられている面もあるはずであり、区民の不満や不安を解消するためには、横浜市や青葉区の10万人当たりの患者数だけでなく、より大きな視野でできる限り客観的な情報を提示すべきと考える。
藤崎議員	集団接種会場での当日キャンセルの発生状況はどうか。また、当日キャンセルで余ってしまったワクチンは区役所の医療従事者等に接種することになっていたと思うが、その接種状況はどうか。
守屋総務課長	昨日までの時点で青葉区の集団接種会場で接種を受けた方は9,442名で、この間、区役所の医療従事者で残余ワクチンの接種を受けたのは47名、キャンセルの割合としては0.04%程度である。
青木福祉保健センター長	残余ワクチンの接種対象となる医療従事者等は約50名で、2回目の接種を終えた職員はまだ数名なので、あと70回程度は残余ワクチンの接種枠がある。
行田議員	その人たちが接種を終えた後に残余ワクチンの接種を受ける人は確保されているのか。
守屋総務課長	健康福祉局の通知に基づき、接種会場の運営に従事する職員を対象に接種を行いたいと考えている。

田中議員	単身の高齢者の方などでなかなか予約が取れず困っている方がいると思うが、どのように対応しているのか。
守屋総務課長	区役所1階にワクチンの相談ブースを設置しており、相談員が来庁者のご相談に乗りながらご予約のお手伝いをするという対応をしている。
田中議員	一時期は相談窓口の電話がつながらずに困っているという声があったが、現在は会場を選ばなければ予約は取れるという理解でよいか。
守屋総務課長	集団接種会場については予約が取りにくい状況にあると聞いているが、個別接種や東京の大規模接種会場については比較的予約が取りやすいと聞いている。
田中議員	87か所の医療機関をご案内すればご自身でお電話できる方もいらっしゃると思うので、ご相談を受けたら今後はそちらをご案内してみようと思う。 もう一点、各種支援策については、どのようにご案内をしているのか。
吉田福祉保健 センター担当 部長	困窮者対応については、現在国において新しい仕組みをつくっている最中と聞いている。社会福祉協議会の融資制度と連動させた形の事業スキームと聞いており、市に説明があり次第、順次支援させていただく予定である。
田中議員	中小企業、小規模事業者への支援についてはどうか。
鈴木地域振興 課長	令和3年度横浜市商店街個店の活力向上事業として、補助率2分の1、補助限度額は原則100万円という内容で、今年の12月28日まで支援を行っている。昨年度から引き続いての支援制度だが、経済局から区商店街連合会へのお知らせに加えて、区としても様々な機会を捉えて商店街や中小企業の皆様にご案内させていただきたいと考えている。
田中議員	昨年は「新しい生活様式」対応支援事業に対して補助金の申請が865件と多くあったようだ。補助率は前回より高くないが、設備投資型の支援や創業支援の制度がある。経済局から案内が行っている方もいると思うが、例えば区役所のラックに配架する等、広報に努めてほしい。
横山議員	高齢者への接種の次は基礎疾患を持つ方、そして64歳以下の方へと接種が進んでいくが、接種を希望する市民全員が11月をめどに2回の接種

	を終えられる見込みだという市の記者発表もあり、安心している。 今後は、接種を受けたいがどうしたらいいか分からないという方、個々にリーチできない方々についてどうするのかというところに問題が移って来るのではないかと考えている。 例えば自分からコールセンターへ電話して、予約の方法が分からないと相談できる方には適切なアドバイスができると思うが、打ちたいけれども本当にどうしたらいいのかわからないという人に対してこちら側からどのような手段でアウトリーチしていくのかという点は大きな課題と考えている。その点をどのように認識しているか。 青木福祉保健センター長 個々の事情でどうしても打たなくてはいけない、打ちたいという方でも手段が分からず予約できない、接種に向かえないというところをどう解決するか、手段を色々取りそろえなくてはいけないということで、徐々にできることから整え出しているのが現状である。 例として一つは、日頃から高齢者のご自宅への訪問や見守りを行っている民生委員の方、あるいは地域の連合自治会町内会長といった地域の核になる方々と緊密に情報を共有しようと考えている。 それ以外では、訪問診療をやっている先生方がいらっしゃる。打ちたいけれども家から出てこれられない、出てくるだけのご本人・ご家族の力がないという方に訪問で医療を届けていただいている。そうした訪問診療の先生方にもかなり手を挙げていただいている、訪問で接種できるような体制も整えている。 さらに、医療や福祉につながっていない、孤立してしまっている高齢者の方が在宅でいらっしゃることを我々も把握している。そういう方たちに特化して、普段は診ていない患者さんでも訪問・診察して接種しますよというような熱心な先生方のリストを入手しているので、そういう先生方にご活躍いただきながら、ご家庭に赴いての接種ということも考えている。 また、区役所のワクチン相談窓口にいる相談員も窓口に余裕があるときはより丁寧にお話ができることもあり、ここの先生ならまだ予約枠がありそうだといった細かな情報がだんだん届きやすくなっていると感じている。 以上のように、区役所やお近くの地区センター、ケアプラザにお越しになれる方にはそこでご案内し、お越しになることが難しい方については先生方に出向いていただく体制も整えている。 まだ十分とは言えないと思うが、引き続き努力していきたい。 横山議員 市会でも孤立を防ぐ地域づくり特別委員会を設置する等、市民の社会
--	---

	的孤立の状況についてこの間かなり関心を持って議論してきた。 特にワクチン接種の場合は、接種を終えた方の人数がある程度にまで達すると、そこからは個々に対応しなければならない方々の存在が当然クローズアップされてくる。 民生委員さんによる訪問や訪問診療医の方々との連携等により、打ちたいけれども打つ方法が分からない、あるいは社会とあまり関わり合いがないけれども打ちたいと思う方の気持ちをぜひ酌んでいただきたい。
--	---